

(大正五年四月六日第三種郵便物認可)昭和二年三月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

哲 學 研 究

第 二 十 二 卷 第 三 册

第 二 百 五 十 二 號

昭 和 二 十 年 三 月 一 日 發 行



實踐と對象認識

—— 歷史的世界に於ての認識の立場 ——

文學博士 西田幾多郎

感情の存在論的構造

文學士 島 芳 夫

『命題論理學の歴史』

ジャン・ルカジェウイッツ
理學士 三田博雄 譯

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究会ヲ開ク

一、毎年公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回哲學研究ヲ發行ス

第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會ス
ルコトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納
スベキモノトス

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌
『哲學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士															
天野	岩井	植田	白井	小島	木村	九鬼	田邊	中西	西谷	野上	羽溪	波多	服部	本田	山内
貞祐	勝二	壽藏	二尙	祐馬	素衛	周造	正一	正一	啓治	俊夫	了諦	精一	英次郎	義英	得立

前 號 目 次

藝術的表現の意義	文學士 河本敦夫
推古彫刻史序説	文學士 蓮實重康
量子力學に於ける觀測に就て	文學士 武谷三男
新刊紹介、卒業論文題目等	文學士 武谷三男

告 會

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
 二、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
 三、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御紹介被下度候
 四、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御送被下度候
 京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

定 規 文 註

◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
 ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
 ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替大阪三九三一番東京三九三一番)内外出版印刷株式會社宛に願上候
 ◆ 前金切れの場合は帯封に「前金切」の印章捺致すべしに付直に御拂込下され度候
 ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

冊	冊	冊	冊
一	六	十二	十二
冊	冊	冊	冊
金四拾錢	金貳圓四拾錢	金四圓八拾錢	金四圓八拾錢
郵	金壹圓	不	不
稅	不	不	不
受	受	受	受

廣告料 一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十二年二月廿五日印刷納本 第二百五十二號 第三十二卷 昭和十二年三月一日發 行

不許複製 禁轉載

編輯者 京都帝國大學文學部内 京都哲學會
 右代表者 服部英次郎
 發行者 須磨勘兵衛
 印刷者 須磨勘兵衛
 印刷所 須磨勘兵衛

發行所 京都市下京區西洞院七條南 内外出版印刷株式會社

本社 京都市下京區西洞院通七條南入
 販賣所 京都市日本橋區室町四丁目 内外出版印刷株式會社

賣捌所 (大坂) 寶隆館 東京 東海堂
 (神戸) 寶隆館 東京 東海堂
 (京都) 寶隆館 東京 東海堂
 大寶文社 川瀬書店 參文社

京大教授 山内得立著

體系と展相

價三〇〇 送・三三
菊判クロス 四八〇頁

新刊

本書收むるところ博士が學窓を出でて間もなき頃より今日に至る迄の短論文十六篇を以てする。讀者はこれらの論文に依て、一方ホルツァノマイノングやブレンターノやフツサルなどの獨逸學派の諸星を遍歴せられた著者の長い探索の旅路の跡を辿りつゝ、多影にして豊富な示唆を數多く得ると同時に、他方また主體的立場に反對して客體的立場を闡明し顯揚せんとする方向へ漸次熱と自信とを以て進んで行かれる開拓者として著者の努力から尠からぬ啓發と激勵とを受けると、思はれる。著者はその自序に於て「私の願ふところはむしろ客體的立場に徹することに依て主體的なるもの、當に到るべき處に歸せんとすることである」と云つてゐる。客體的の存在論に關心を有つ人々は固より然らざる人と雖もこの方面に於ける著者の將來の發表を期待すると共に、先づ以て本書を繕いて著者の主張に公平なる耳を傾くべきであらう。

目次 哲學の出發 超辨證法 混合の論理 アナログア思想の位置 ロゴスと「精神」存在のロゴス的
性格と氣分的性格 實踐の存在論的性格 Die Mitte から Das Mittel へ アリストテレスの Sensus
(Communis) について 意味的論理學 (apophantische Logik) の「意味」辨證法と現象學 現象學的領
域 論理的と對象論的 高橋教授著「全體の立場」に因みて拙著批評に答ふ 美の對象性 高次の對象

藝術史の課題

京大教授 文學博士 植田壽藏著 價二〇〇 送・二二

ヘーゲル研究

東京文理大教授文學博士 務臺理作著 價二二五 送・二二

再版

(大正五年四月六日)昭和十二年二月廿五日印刷納本(毎月一回)
第三種郵便物認可(昭和十二年三月一日發行)行(一日發行)

哲學研究 第二百五十二號 定價金四拾錢 郵税金壹錢



弘文堂

東京市寺町丸太町 替振 都京 一三二五番
東京市神田駿河臺 替振 東京 三五九〇番